

【概要】

多職種連携は、患者・当事者、家族らと多職種の専門家が連携して、保健・医療・福祉の現場において、患者・当事者、家族らのケアの質や社会的課題の解決・解消を通じた、QOL(Quality of Life:人生の質、生活の質)の向上のために協働することである。現代の保健・医療・福祉において一人の専門家がその知識や能力を駆使して、単独で課題を効率的に解決することは不可能である。互いに異なる知識・能力をもつ複数の専門家が協働することが必要とされる。

本講義では、多職種連携の実態を知り、得られた知識について話し合いまとめることを通して、保健・医療・福祉の分野における多職種連携について学ぶことを目的とする。具体的には、地域包括ケアにおける業務を、多職種連携の観点に注目しながらオンラインで見学する。多職種が連携して取り組む課題を明らかにする。専門職、患者・当事者・家族らに対してウェブカメラ等を用いてインタビューする。得られた情報をもとに自分の専攻とは異なる学科の学生とともにディスカッションを行い、多職種連携に関する知識と考えをまとめる。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による